

平成27年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月11日

東

上場会社名 株式会社メディックグループ 上場取引所
 コード番号 2369 URL http://www.medibic.com/
 代表者 (役職) 代表取締役社長 (氏名) 窪島 肇
 問合せ先責任者 (役職) 取締役 (氏名) 疋田 賢司 (TEL) 03-5439-9691
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第3四半期の連結業績 (平成27年1月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第3四半期	60	△41.2	△351	—	△413	—	△477	—
26年12月期第3四半期	103	△25.6	△354	—	△357	—	△393	—

(注) 包括利益 27年12月期第3四半期 △478百万円(—%) 26年12月期第3四半期 △383百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第3四半期	△16.29	—
26年12月期第3四半期	△13.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第3四半期	569	542	90.6
26年12月期	980	908	92.7

(参考) 自己資本 27年12月期第3四半期 515百万円 26年12月期 908百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年12月期	—	0.00	—	—	—
27年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年12月期の連結業績予想 (平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	101	△70.8	△448	—	△510	—	△644	—	△21.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 一 、 除外 一社(社名) 一
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年12月期3Q	29,408,020株	26年12月期	29,059,820株
② 期末自己株式数	27年12月期3Q	一株	26年12月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年12月期3Q	29,331,493株	26年12月期3Q	28,826,304株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、各種政策効果の発現を背景として景気は緩やかな回復基調をみせながらも、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要に対する反動から、4月以降個人消費の厳しさが継続し不透明な状況のまま推移いたしました。

当社グループを取り巻く環境としましては、政府が推進する医療分野の成長戦略の取り組みのもと、iPS細胞などによる「再生医療」の早期実現、ゲノムコホート研究、バイオバンク基盤整備、「個別化（テーラーメイド）医療」などの取り組みが活発化しました。

このような状況のもと当社グループは、検体保管事業による匿名化システムの開発案件や遺伝子解析に関する受託事業、さらには患者様ダイレクトに遺伝子検査事業を展開してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績、セグメントの業績は、次のとおりであります。

	実績(千円)	対前年同期増減(千円)
売上高	60,383	△42,999
営業損失	351,127	△3,077
経常損失	413,379	55,569
四半期純損失	477,760	84,757

① 遺伝子事業

遺伝子事業につきましては、「おくすり体質検査」「CYP2D6遺伝子検査」などの販売を直販、クリニック、調剤薬局などを通じて行ってまいりました。

「おくすり体質検査」は、主に調剤薬局からの引き合いで販売をしていますが、今後も薬による副作用発症リスク判定を遺伝子レベルで手軽に行うことができる検査として、販売の拡充・遺伝情報の活用を進めてまいります。

「CYP2D6遺伝子検査」では、「乳がん患者」のみをターゲットとした初めての直販サービスに取り組んでまいりました。今後は、本検査をさらに拡大し、当社グループ運営の「Cheer Woman」という乳がん患者のみに特化したSNS（ソーシャルネットワークサービス）との協業や、本検査を活用してのサービス拡大を図り、市場浸透に取り組む方針であります。

さらに、「AGA（男性型脱毛症）」や「認知症」に関する遺伝子検査についても、病院・クリニックや創薬企業からの問い合わせが増えており、販路構築を進めております。

この結果、遺伝子事業の売上高は44,217千円（前年同四半期比8.4%減）、セグメント損失（営業損失）は85,743千円（前年同四半期はセグメント損失48,438千円）となりました。

② 治験支援事業

治験支援事業につきましては、治験コーディネイト業務のターゲットとして婦人科系、消化器系、整形外科系に注力して営業展開を行い、活動してまいりましたが、治験事業での収益獲得が厳しい状況が続き、当社グループにて治験支援事業を継続していくことは、グループ全体の収益バランスを不安定にするリスクの可能性が高いこと、治験支援事業を拡大するために必要となる人材育成にかかる時間及びそのコスト等を勘案した場合、今後当社グループの成長分野および戦略的事業として治験事業に対し資本投下を行い、事業立て直しを推進して行くことが難しい状況であること勘案し、平成27年9月4日付にて治験支援事業を行ってまいりました当社連結子会社である株式会社サイトクオリティーの株式を売却いたしました。

この結果、株式会社サイトクオリティーを売却するまでにおける治験支援事業の売上高は9,816千円（前年同四半期比71.8%減）、セグメント損失（営業損失）は7,526千円（前年同四半期はセグメント利益704千円）となりました。

③ 再生医療事業

再生医療事業におきましては、これまで「脊髄損傷」および「重症肝疾患」犬への脂肪由来間葉系幹細胞の投与治験を全国450の動物病院にて実施しており、この治験において蓄積した幹細胞の分離・培養技術を自動化する装置の開発に着手し、平成25年7月に「幹細胞自動培養装置」のコンセプト機を完成し運用しております。

また当該自動培養装置のコンセプト機を基とした小型ロボット化の開発に対し、平成27年8月にNEDO：国立研

究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構より助成金採択を受けることが決定いたしました。

さらに、細胞加工技術や難治性疾患領域において大学との共同研究を進め、今後の成長分野に積極的に投資を行い、ほ乳類動物の加齢性における不妊・繁殖障害に対する新規治療法の研究開発に関する特許出願を行いました。

また、競走馬の難治性疾患に対する研究開発に取り組み、臨床試験を進めておりますが、当四半期会計期間においては、まだ営業費用をカバーするまでには至りませんでした。

この結果、再生医療事業の売上高は6,350千円（前年同四半期比5.8%増）、セグメント損失（営業損失）は102,693千円（前年同四半期はセグメント損失107,920千円）となりました。

④ その他

その他事業につきましては、米国Eleison Pharmaceuticals, LLC.（Eleison社）が開発している抗がん剤 Glufosfamide（グルフォスファミド）の支援に取り組んでおります。

Eleison社は、第Ⅲ相臨床試験申請が遅延しておりましたが、平成25年10月7日付すい臓がん患者に対するグルフォスファミドの安全性と有効性を評価するための第Ⅲ相試験を米国内にて開始したことを発表しました。主要エンドポイントは、全生存期間です。Eleison社は、この第Ⅲ相試験のためのSPA（Special Protocol Assessment）を米国食品医薬品局（FDA）と協定を締結しております。当初第Ⅲ相試験は、平成27年完了の予定であり、試験完了後にNDA（新薬承認申請）をFDAに申請する計画でしたが、現在試験期間を平成29年まで延長したため、NDAもその時期になる見通しであります。

こうした状況下で当社グループは、Eleison社との共同開発支援パートナーとして、米国およびグローバルでの臨床試験の経過を注視しつつ、アジア地域におけるライセンス販売活動を積極的に進めているところであります。

この結果、その他事業における売上高は一千円（前年同四半期比100.0%減）、セグメント損失（営業損失）は4,640千円（前年同四半期はセグメント損失33,269千円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産は569,331千円となり、前連結会計年度末に比べ410,811千円減少いたしました。主な要因としては、受取手形及び売掛金の減少233,159千円、減損損失等の計上に伴う機械装置及び運搬具等の有形固定資産の減少38,602千円及びのれん等の無形固定資産の減少87,668千円、貸倒引当金の増加61,205千円等によるものであります。

負債は27,246千円であり、前連結会計年度末に比べ44,111千円減少いたしました。主な要因は、未払法人税等の減少24,544千円等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ366,699千円減少し、542,084千円となりました。これは第三者割当増資による新株式の発行に伴い資本金及び資本剰余金がそれぞれ42,480千円増加し、第三者割当による新株予約権発行に伴い新株予約権が26,350千円増加したものの、四半期純損失477,760千円を計上したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年8月12日付「平成27年12月期 第2四半期累計期間の業績予想と実績の差異及び通期業績予想修正に関するお知らせ」において公表いたしました平成27年12月期の連結業績予想につきましては、本日（平成27年11月11日）公表いたしました「営業外費用及び特別損失発生並びに平成27年12月期通期業績予想修正に関するお知らせ」の通り修正しておりますのでご参照下さい。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、営業損失、経常損失、当期純損失及び営業活動によるキャッシュ・フローにおきまして前連結会計年度まで継続してマイナスを計上しており、当第3四半期連結累計期間におきましても営業損失351,127千円、経常損失413,379千円、四半期純損失477,760千円を計上するに至っており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループにおきましては、継続企業の前提に疑義を生じさせるような事象を解消するため、「事業収益の拡大」及び「資産のキャッシュ化」を経営の柱として、引き続き安定した財務基盤の確立に努めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	156,720	160,898
受取手形及び売掛金	259,025	25,865
商品及び製品	2,030	—
仕掛品	7,627	—
貯蔵品	9	5
未収入金	49,763	13,416
その他	18,765	36,070
貸倒引当金	△22,685	△21,785
流動資産合計	471,256	214,470
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	77,017	64,181
その他(純額)	24,174	2,142
建設仮勘定	3,734	—
有形固定資産合計	104,925	66,323
無形固定資産		
のれん	256,252	205,002
その他	36,418	—
無形固定資産合計	292,670	205,002
投資その他の資産		
投資有価証券	123,920	123,030
その他	17,178	52,418
貸倒引当金	△29,810	△91,915
投資その他の資産合計	111,289	83,534
固定資産合計	508,885	354,860
資産合計	980,142	569,331
負債の部		
流動負債		
買掛金	501	2,643
未払法人税等	29,530	4,985
1年内返済予定の長期借入金	2,113	2,134
その他	32,291	12,804
流動負債合計	64,436	22,568
固定負債		
長期借入金	4,026	2,422
繰延税金負債	2,895	2,256
固定負債合計	6,922	4,678
負債合計	71,358	27,246
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,926,955	2,969,435
資本剰余金	3,460,152	3,502,633
利益剰余金	△5,483,553	△5,961,313
株主資本合計	903,555	510,755
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,229	4,979

その他の包括利益累計額合計	5,229	4,979
新株予約権	—	26,350
純資産合計	908,784	542,084
負債純資産合計	980,142	569,331

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
売上高	103,383	60,383
売上原価	85,608	34,969
売上総利益	17,775	25,414
販売費及び一般管理費	371,980	376,541
営業損失(△)	△354,204	△351,127
営業外収益		
受取利息	1,608	48
助成金収入	1,458	1,458
その他	777	8
営業外収益合計	3,843	1,515
営業外費用		
支払利息	99	71
支払手数料	4,300	600
貸倒損失	—	1,538
貸倒引当金繰入額	—	61,521
投資事業組合等損失	1,700	—
その他	1,347	36
営業外費用合計	7,448	63,767
経常損失(△)	△357,809	△413,379
特別利益		
関係会社株式売却益	977,336	2,880
固定資産売却益	—	1,651
特別利益合計	977,336	4,532
特別損失		
貸倒引当金繰入額	977,335	—
減損損失	13,071	49,720
固定資産廃棄損	433	6,549
固定資産売却損	9,696	—
投資有価証券評価損	8,044	—
債権譲渡損	—	10,860
その他	1,900	—
特別損失合計	1,010,480	67,130
税金等調整前四半期純損失(△)	△390,953	△475,977
法人税、住民税及び事業税	2,063	1,782
法人税等合計	2,063	1,782
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△393,016	△477,760
少数株主損失(△)	△13	—
四半期純損失(△)	△393,003	△477,760

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△393,016	△477,760
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,015	△250
その他の包括利益合計	10,015	△250
四半期包括利益	△383,000	△478,010
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△382,987	△478,010
少数株主に係る四半期包括利益	△13	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年3月2日付で、ロート製薬株式会社、株式会社ユニヴァ・キャピタル・ファイナンス、株式会社フォーシス アンド カンパニーから第三者割当増資の払込を受けました。この結果、第1四半期連結累計期間において資本金が42,480千円、資本準備金が42,480千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が2,969,435千円、資本剰余金が3,502,633千円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遺伝子事業	治験支援 事業	再生医療 事業	その他事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	48,260	34,757	6,000	14,365	103,383	—	103,383
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	48,260	34,757	6,000	14,365	103,383	—	103,383
セグメント利益又は損失 (△)	△48,438	704	△107,920	△33,269	△188,923	△165,281	△354,204

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△165,281千円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門にかかる費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他事業」セグメントにおいて減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては13,071千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度から第1四半期連結会計期間にかけての連結子会社の増減に伴い、事業セグメントの区分を見直し、報告セグメントを従来の「バイオマーカー創薬支援事業」「テーラーメイド健康管理支援事業」「創薬事業」「投資・投資育成事業」から、「遺伝子事業」「治験支援事業」「再生医療事業」「その他事業」に変更しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遺伝子事業	治験支援 事業	再生医療 事業	その他事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	44,217	9,816	6,350	—	60,383	—	60,383
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	44,217	9,816	6,350	—	60,383	—	60,383
セグメント損失(△)	△85,743	△7,526	△102,693	△4,640	△200,603	△150,523	△351,127

(注) 1. セグメント損失の調整額150,523千円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門にかかる費用であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報(固定資産に係る重要な減損損失)

「遺伝子事業」セグメント及び「その他事業」セグメントにおいて減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては49,720千円(「遺伝子事業」セグメント30,970千円、「そ

の他事業」セグメント18.750千円) であります。